

2016 年度小委員会活動成果報告

(2016 年 11 月 30 日作成)

小委員会名	構造工学論文集編集小委員会		主 査 名：竹脇 出 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会		委員長名：緑川光正
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・1 編につき 3 名による査読付き論文集『構造工学論文集』を毎年 1 回刊行し、 登載論文を中心としたシンポジウムを開催することにより、産官学各界の研究者・技術者に 学術交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を図る。</p> <p>初年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.60B』の刊行 第 59 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>2 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.61B』の刊行 第 60 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>3 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.62B』の刊行 第 61 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>4 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.63B』の刊行 第 62 回構造工学シンポジウムの開催</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無 (構造工学にかかわるあらゆる分野が論文の対象となるため、各運営委員会主査 を委員に配するなどして、分野構成には特に考慮している)。</p> <p>主査 竹脇 出 (京都大学)</p> <p>幹事 五十嵐規矩夫 (東京工業大学)、五十田 博 (京都大学)、真田 靖士 (大阪大学)、 護 雅史 (名古屋大学)、米田雅子 (日本学術会議、慶應義塾大学)</p> <p>委員 倉本 洋 (大阪大学)、塩原 等 (東京大学)、高田 毅士 (東京大学)、 竹内 徹 (東京工業大学)、多田 元英 (大阪大学)、時松 孝次 (東京工業大学)、 緑川 光正 (北海道大学)、宮本 裕司 (大阪大学)、元結正次郎 (東京工業大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2016 年度予算	350,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『構造工学論文集 Vol.63B』
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. 第 62 回構造工学シンポジウム 参加者数 377 名</p> <p>①特別講演会 「高強度コンクリートの変遷と建築構造への適用」 参加者数 116 名</p> <p>②建築・土木合同パネルディスカッション 「建造物のヘルスマニタリングと総合的継続利用評価」 参加者数 103 名</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. すべて滞りなく達成した。
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 主催者である日本学術会議土木工学・建築学委員会並びに共催の土木学会構造工学委員会・論文集編集小委員会と、今後とも十分な事前調整が必要。</p> <p>2. 建築分野の投稿論文題数増加に向けた対策。</p>